

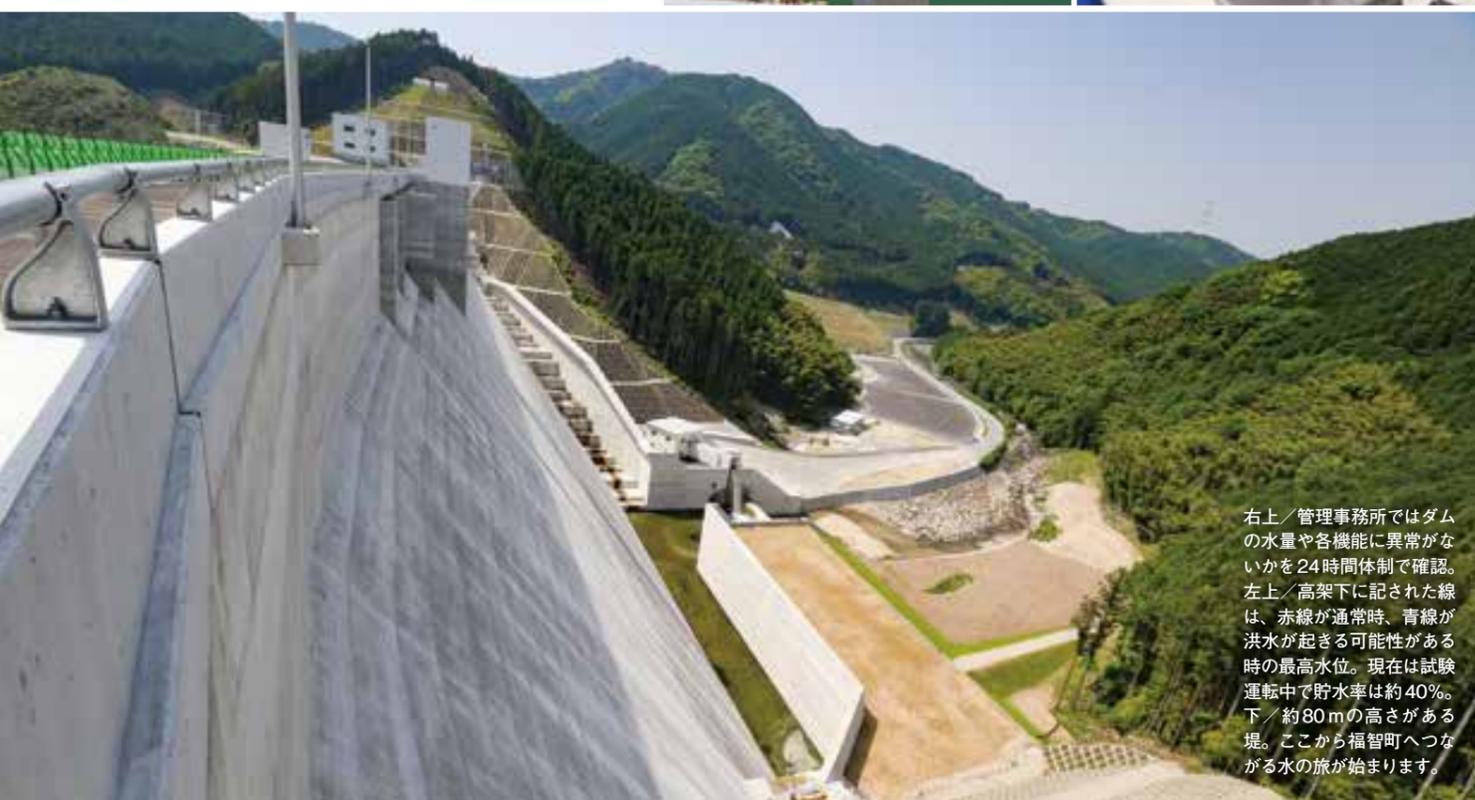
伊良原ダム

半世紀を経て完成した県内有数の貯水施設

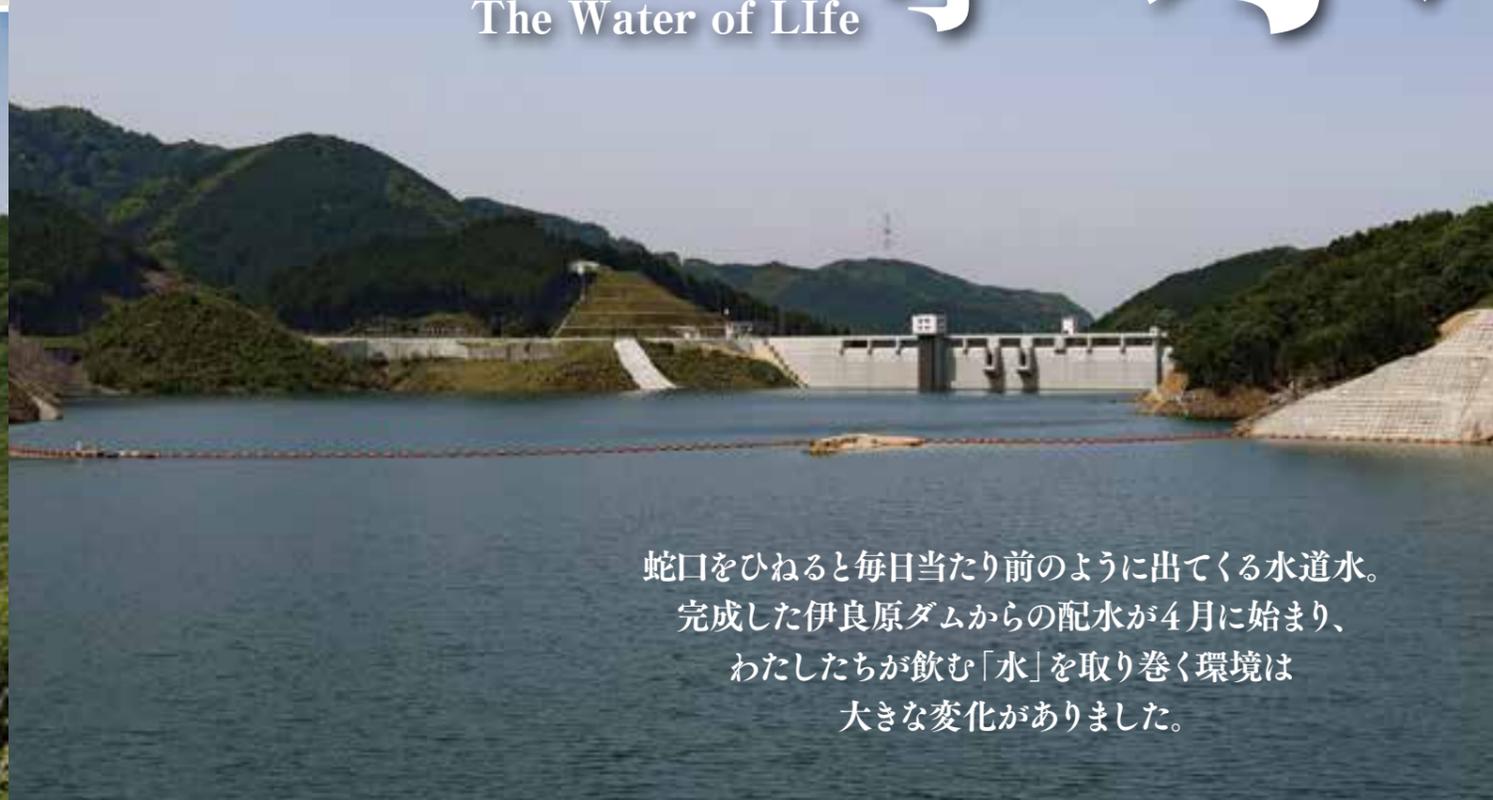


生活守る水

The Water of Life



右上/管理事務所ではダムの水量や各機能に異常がないかを24時間体制で確認。左上/高架下に記された線は、赤線が通常時、青線が洪水が起きる可能性がある時の最高水位。現在は試験運転中で貯水率は約40%。下/約80mの高さがある堤。ここから福智町へつながる水の旅が始まります。



蛇口をひねると毎日当たり前のように出てくる水道水。完成した伊良原ダムからの配水が4月に始まり、わたしたちが飲む「水」を取り巻く環境は大きな変化がありました。



伊良原ダム

竣工：平成30年3月
型式：重力式コンクリートダム
堤高：81.3m
堤長：339m
堤体積：419,000m³
総貯水容量：2,870万m³

伊良原ダム周辺 MAP



県内で2番目の規模を誇る伊良原ダム。最新の設備による水量管理だけでなく、水温を測定し低温の水は流さないなど、周辺の環境や生態系にも配慮しています。



田川地区水道企業団派遣
中川 哲太郎 (川崎町)

伊良原ダム送水開始 良質な水が町内全域に

昭和36年度の調査開始から、約半世紀をかけて完成した県営伊良原ダム。田川・京築地区への配水と、水源である祓川の水量調整や洪水防止を目的に、京都郡みやこ町に建設されました。2度の計画変更などで予

人の体の60%以上が水分であるように、水は飲料・洗濯・調理・入浴など、あらゆる生活の場面で私たちに欠かせない命の源です。その水が福智町で1日に使用される量は約1万トン。これはB&G海洋センターの25mプール30杯に相当します。

定より建設の遅れがありました。4月から各地区への配水を開始。水利権をもつ田川地区水道企業団からの配水により福智町にも上質なダムの水が届くようになりました。

これまで福智町は、自己水源と他地区から供給される水を合わせて必要量を確保してきました。この伊良原ダムの完成に伴い、他地区から供給される配水量は約2倍の日量7千5百m³まで増加。全て自己水源に頼っていた方城地区にもダムの水を配水できるようになり、町内全域で良質な水が飲めるようになりました。



4月からダムの水が届くようになった福智町の上水道。その原水の水質は確実に向上しています。

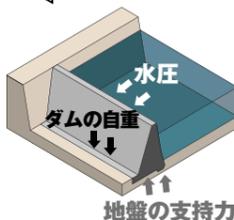
田川地区水道企業団派遣
植田 浩央 (福智町)



祓川 (はらいがわ)

英彦山付近を源流とし、みやこ町犀川地区から行橋市へ流れる流域延長31kmの二級河川。豪雨などでたびたび河岸の決壊や氾濫、洪水を起こし、家屋や農地に被害が出ていた一方、猛暑の影響で温水が起き、水不足が深刻な問題になっていました。

重力式コンクリートダムとは？



主材料であるコンクリートの質量を利用し、ダムの自重で水圧に耐える方式のダム。数種類ある型式で最も頑丈で耐久度が高く、地震や降水量の多い日本に最も適した型式です。